

MMMT: Monday Morning Manabi Time!



LEARN WELL

株式会社 ラーンウェル

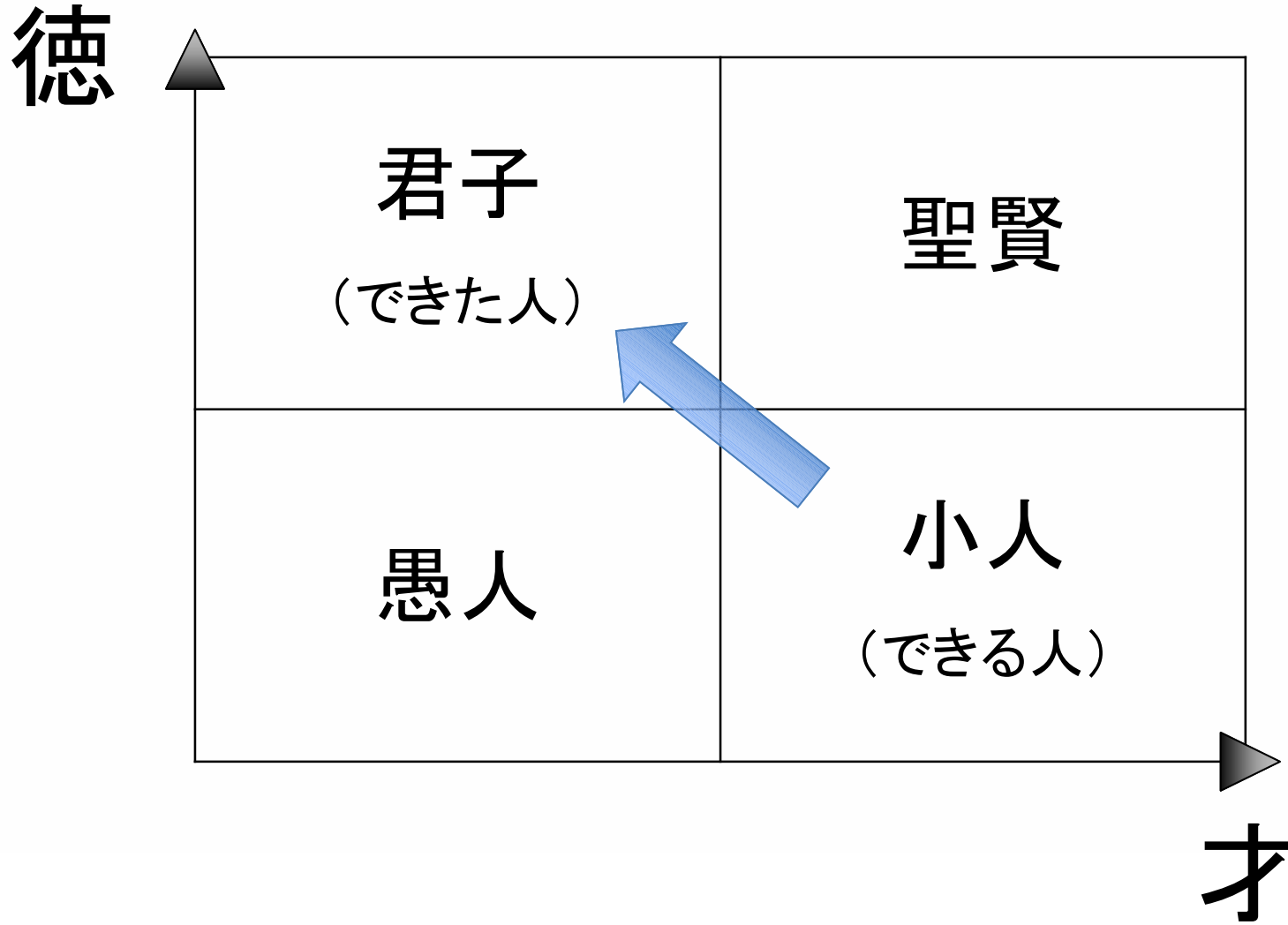
MMMT: Monday Morning Manabi Time!

1. オープニング(導入)
2. ボディ(本論)
 - ・研修転移
 - ・研修評価
 - ・OJT 等
3. クロージング(結び)

東洋の古典を通じて、考えていきたいこと

M M M T

- 徳と才
- 本学と末学
-



ヒトを通じて、コトを成す

“Getting things done through others”

中原(2014)『駆け出しマネジャーの成長論』

ヒトを通じて、コトを成すには…

M M M T

修己治人

『大学』(中国の古典)

東洋の古典を通じて、考えていきたいこと

M M M T

- 徳と才
- 本学と末学
-

本学と末学

- ・徳性を育てていく学問を「本学」と呼び、
知能・技能を育てていく学問を「末学」と呼ぶ。
 - ・本になる学問は「人間学」と呼び、
知識や技術を身につける学問を「時務学」という。
 - ・昔は、学問といったら人間学のことをいった。
そして知識、技術を学ぶ時務学のほうは「芸」といった。
 - ・学と芸の両者を修めることによって、人の指導者にもなれる。
-
- ・修身科がないことを憂えた明治天皇が、明治23年に「教育勅語」を出された。
 - ・「大学」の精神が、教育勅語の中に表れている。
-
- ・焼野原と化した国土復興。経済復興をする上において一番手近なものは、
それに必要な知識、技術を身につけるということ。
だから、本学である修身科を廃して、末学のほうに重点が置かれた。

『己を修め人を治める道～「大学」を味読する』伊與田覺(2008)



- ・ヨーロッパの学問の特長は、まず理論に優れることである。あらゆる事物の研究は、科学的と称する分析法に収斂する。
- ・日本の教育が洋風化し、その結果、人間はいかに生きべきかという実践の学、人間の学は、俗なものであり、遅れたるものとして一顧だにしないという風潮が世を覆って、今日にいたっている。
- ・学科を極めて技術者だけは養成されようが、人を治め得る器量の者はできないであろう。
- ・王陽明は、大学は「大人になるための学問」とし、「大人とは、天地同根万物一体と観じ得る人」と断じる。
- ・反対に、自分と他人を分けてしか考えられない人を「小人」と言っている。
- ・明治以降の「才」を重視した教育によって、支配階級やインテリ思想、世界観は、唯物的、利己的、唯我的になっており、安岡先生は「精神革命」を起こす必要があると考えた。

『儒学に学ぶ経営の心～修己治人』柳橋由雄(1990)



- ・戦前までは江戸由来の伝統的な規範形成教育があったが、占領期にGHQが日本の教育を徹底的に調査して「これは外した方がいい」としたもののの中に、規範形成教育が含まれていた。
- ・「正」とは「この線で止まれ」という意味。正しいことをやろうと思ったら、基準となる線が必要。
- ・本能にブレーキをかけること。これが修身の最大の眼目。
- ・近代西洋思想は、個人主義、エゴイズムが特徴。自分と他人を分離しがち。
- ・現代人は、近代西洋思想の「物事の知識は全部外側から学ぶ」という考え方に毒されている。
- ・東洋思想の古典に共通して書いてあることはそれとは逆で「人間が生きるために重要なものは、全部あなたの中にある」ということ。
- ・これからは、西洋思想と東洋思想の知の融合の時代になる。

『「大学」に学ぶ人間学』田中佳史(2021)

- ・1927年に創立した金鷄学院と、1931年の日本農士学校によって、安岡は、明治以来の日本の教育に代案を突き付けたと言える。
- ・明治以来の学校教育に疑問を感じて、安岡は2つの科目を課した。正徳科目と呼ばれる学科と、利用科目と呼ばれる実地。
- ・勉強には大きくわけて2つある。
1) 自己を確立するための勉強 2) 自分の仕事に関する勉強
- ・吉田良次は、戦後教育、いや明治教育の欠陥は、教育から宗教や道徳を取り去ったことだと断言する。大人へと育っていく子供たちに、人間かくあるべしという規範教育、別な言葉で言えば、宗教教育、道徳教育をやらなかったから、体だけ大人になった動物のような人間ができるだけだという。

『人生の師父 安岡正篤』 神渡良平(1991)

- ・社会主義者、共産主義者等の過激な革命思想をもった人々が、GHQの中に割り込み、日本を実験台にして、いろいろとやった。
- ・教育勅語の廃止だけでなく、日本の修身教育、歴史教育、地理教育を廃止させる。そしてこれを円滑に進め、その抵抗を少なくするために、国民の破棄を奪う、覇気や活力のはけ口として、スポーツを奨励する。
- ・徳性、属性、習性の3つから、人間は成り立っているといってもよい。

『日本はどうか、どうするか』 安岡正篤(1983)

- ・昭和21年12月、安岡は公職追放されると、埼玉県菅谷に移った。
- ・日本農学校の経営を引き継いだ埼玉県。
人格教育の場は、技術教育の場に変化していった。
- ・(敗戦後の)日本の秩序は、天皇の存在によるものであり、GHQは、政治改革は天皇制までは手を付けない方がいいと判断するようになっていた。

『安岡正篤の世界～先賢の風を慕う』神渡良平(1991)



- 陶冶：試練を加え育てる、生まれついた性質や才能を鍛えて
練り上げる
- 今は、科学と論理と経済生活とが万事という時勢である。
- 真の学問は、先ず何によるべきか。
それこそ、善き師友、活きた人物の感化に勝るものはない。
次に、諸の書物、ことに古典である。
- 抽象的・一面的な理論（例：マルキシズム）ほど
人物を教養する力は薄いのである。

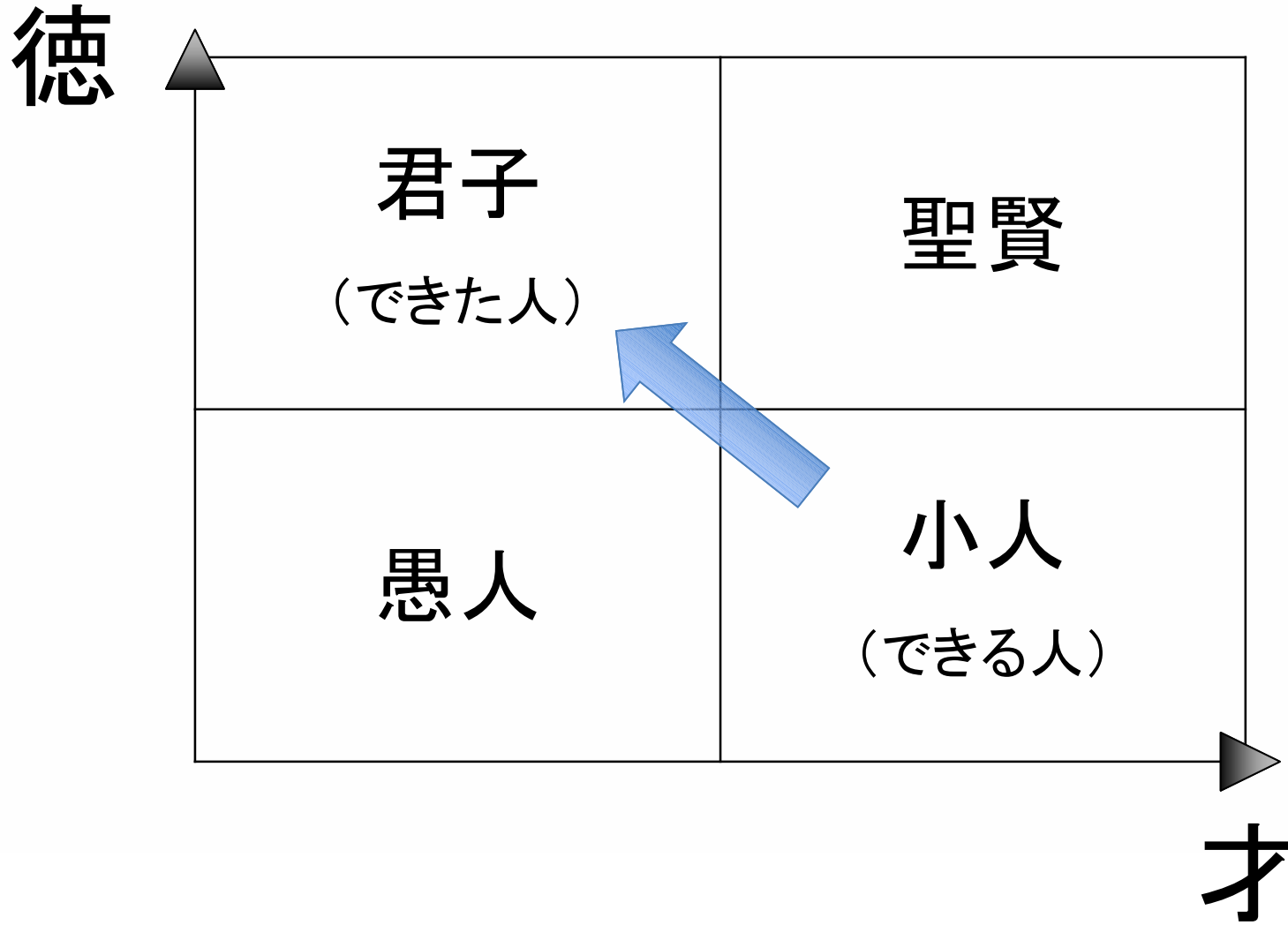
『人間としての生き方～現代語訳「東洋倫理概論」を読む』
安岡正篤著・武石章訳・安岡正泰監修（1929・2008）

- 徳を伸ばせるのか？（人は変わるのか？）
 - ・「本学・人間学・修身」により伸ばせる。
（才は、「末学・時務学・芸」で伸ばしている）
 - ・「師」（生きている人物、過去の聖賢）と
「朋友」（師を同じうする朋、志を同じうする友）から学ぶ。
 - ・企業研修であれば、「古典の読書会と意見交換」による内省支援により、
徳を伸ばしていけるのでは？
 - ・曾子曰く、吾（われ）、日に三たび吾が身を省みる。
人の為に謀りて忠ならざるか、朋友と交わりて信ならざるか、
習わざるを伝うるか。

東洋の古典を通じて、考えていきたいこと

M M M T

- 徳と才
- 本学と末学
-



ヒトを通じて、コトを成すには…

M M M T

修己治人

『大学』(中国の古典)



MMMT: Monday Morning Manabi Time!

1. オープニング(導入)
2. ボディ(本論)
 - ・研修転移
 - ・研修評価
 - ・OJT 等
3. クロージング(結び)

MMMT: Monday Morning Manabi Time!



LEARN WELL

株式会社 ラーンウェル